

# 向学館通信

2006・8・28

楽しい夏休みも終わりました。

毎年のことですが夏休みの生かし方は、個人差が非常に大きく、それが秋以降の学習にダイレクトにつながっているようです。

計画的に休みを有効に使ってください、と、先月の通信で述べましたが、みなさん、どうでしたか？

## 数学がほとんど分からない高校生

今回は高校生の英語の勉強について話しましたが、今回は、数学の勉強で気になることを指摘しておきます。

高校の数学は、中学校までの数学とは大きく違っています。それは、解き方を暗記しておけば何とかというレベルではないということです。中学で数学の成績が「4」であった人の多くが、高校の数学ではつまづいてしまいます。「3」であった人は、ほとんど分からないと言っています。

では、高校の数学のどんなところが、中学レベルとちがうのでしょうか。

まず、いちばん大きな違いは、いくつもの原理（公式の理解）を組み合わせ、一つの問題を解いていかなければならないということです。中学の数学では、一つの問題は一つか、せいぜい二つぐらいまでの原理で解けますが、高校の数学では、解き方の道具（原理的な理解）をいくつも駆使して一つの問題を解いていくことになります。つまり、公式の暗記では役に立たず、公式の意味や応用できる範囲をしっかりと分かっていなければならないし、それらを組み合わせる論理的な力が何よりも必要なのです。

この段階で、それまでの学習の仕方が、本物であったか、偽物（にせもの）であったかが問われるわけです。最近の中学校での数学はとても易しくなっていますので、あまり考える努力をしなくても（暗記だけでも）、そこそこの点数がとれるので、そのことに甘んじてしまった人が高校で困っているのです。一にも二にも、自分の頭で考えることでしか、高校の数学は解けません。

ところが、論理的な思考力は、高校になって急に身につくものではありません。それこそ、小学校からの学習習慣や生活態度として定着していくような、根の深いものです。高校生になってからこうした習慣を獲得するのは、不可能ではないにしろ、とても大変なことです。こういうことのないように、もっと早くから「考える習慣」を身につけてほしいと思っています。

## 『漢検』のテスト結果を見て

テストが終わって答案用紙を送り返す前に、大まかですが、結果に目を通しました。今回も、成績の良くない人の特徴は、「対義語・類義語」や「誤字訂正」「熟語」「四字熟語」などが出来ていなかったようです。これに対して、「読み」「書き」の方はかなりできていました。

このことは、「読み」と「書き方」が出来ているのだから、まあいいことにしよう、と安心していられることでしょうか。

対義語・類義語や熟語によわいのには、読み書きができるというのは、漢字の読み書きを、いわば「意味も分からずに」まる暗記してしまうということを示しています。漢字は、一字一字に意味があって、その意味を組み合わせ「熟語」になるのですが、一字一字の意味が分かっていないと、びっくりするような「熟語」を自分で造ったりします。

この傾向は、意味を考えることが苦手だということをも表しています。そして、この学習態度は、単に国語の漢字学習だけではなく、あらゆる学科について「考えるのが嫌」という態度につながっていくのが普通です。こういう意味で、漢字の意味を理解して覚えることの重要性を指摘しているのですが、一字一字の意味を分かろうとしない生徒が多いのです。

## 「ゆとり教育」から「考える力」をつける教育へ

文科省の今後の教育方針がだんだん明らかになってきていますが、「論理的な思考力」や「考える力」「応用力」「国語力」などを求める傾向が強まることが予想されます。私どもが以前から一貫して指向してきた方向性が間違っていなかったと改めて考えています。